

【活動の主題】 人権・同和教育にかかる「自分らしく生きる・自分らしく表現する」活動

【学校名】 近江八幡市武佐小学校

## 1 本校の概要

本校では、これまでから人権・同和教育を学校経営の柱と位置づけ、さまざまな教育活動を系統的に実施している。地場産業の近江牛（食肉産業）学習、LGBTQ+など性の多様性にかかる学習（全学年）、国際理解・共生社会教育（全学年）、アイヌにかかる学習（4, 5, 6年）、障がい者理解学習（3年生）、命の学習（全学年）などを発達段階に応じて取り組み内容は様々であるが、事前学習・出会いの学習・振り返り学習をパッケージ形式で学校行事として取り組んでいる。原則として講師の方に来校いただくか、児童が地域に出かけることで実際に出会い、見て話して感じることを大切にしている。

## 2 取り組んだ内容

### （1）全校観劇「こいぬのうんち」（劇団石）

演者は一人。会場の児童が参加型の演劇。「きれいなものが良くて汚いものが悪い」「強い者が良くて、弱い者は良くない」等で人の価値は測れるものではない。全てのものに大切な命があり、生きる役割があって、尊いもの。いじめや暴言などの課題も含みながら、児童へのメッセージがたくさん詰まった内容であった。児童は、数十名が演技に参加した。



### （2）沖縄の歴史から学ぶ

5年生の総合的な学習では90歳の戦時を知る方が来校した。「みんなと仲良くしたら戦争は起こらない」戦時中のくらしの酷さを聞くことができた。また、オンライン授業で『戦争で起こったこと』を児童が模擬体験した。選択式で「あなたならどうする」を考えた。

### （3）地域学習（八幡掘、八幡上布、葦）

4年生では、近江八幡市の学習で「八幡掘を守る会」の方が来校し、八幡掘の歴史やそれを守ろうとした経緯の話聞いた。また、細かい麻糸を使い織り上げて加工した上質な麻布の近江上布の織物体験を行った。肌触りのよさを感じるとともに、布がどのような手作業で縫われているのかを体験した。さらに、西の湖近辺の葦を使って加工した葦笛や葦の写真立てなどの制作にチャレンジした。市内で売られている「ヨシうどん」を学級で料理し、葦のすばらしさを実感した。

### （4）国際理解

#### ①4, 5年ベトナム文化を学ぶ

大阪からベトナムの方をゲストティーチャーとして招いた。言葉や生活などを中心に聞くことができた。また、日本に住む外国人として体験した「困ったこと」や「うれしかったこと」など、多くの話を聞くことができた。

#### ②5年ナイジェリア文化

ナイジェリアのご夫婦が来校し、ナイジェリアの楽器や文化を紹介してくださった。ナイジェリア料理も教えていただき、文化のちがひ習慣の違いを学んだ。

#### ③インドネシア文化、ブラジル文化、ベトナム文化

地域に住む（保護者を含む）外国籍の方がゲストティーチャーとしてお話をしてくださった。2年生はポルトガル、5年生はベトナム、インドネシアの方をゲストティーチャーに招いて学習した。

### （5）水俣公害から学ぶ

5年生の総合的な学習では、水俣の公害からも人権学習をしている。水俣病が発生した当時、現地の方が従業員として多かった工場、病に侵された人々、差別や悲しみ、立ち上がる人々など、当時の方々の心の揺れ動きを学びながら、「自分なら…」という思いを大切に、学習を進めた。当時現地に住んでいた方をゲストティーチャーに招き、学習を進めた。

## 3 活動の成果

本校では、「学び」を「自分の生活」につなげられるように学習を進めてきた。多くのゲストティーチャーが来校する中で、児童は多様な人（考え方）が世の中に存在することを少しずつ理解している。特に、水俣学習を進める中で、それぞれの考え方や立場があることを学習してきた。学級の中にも多様な友だちが存在して当たり前であり、一人ひとりの個性を認めようという、雰囲気は広がっている。

しかしながら、学校生活の中では、児童同士の思いの衝突、意見の衝突が日常的に起こっている。今後も、多様な生き方を理解できるように、また尊重できるように取組を進めていきたい。